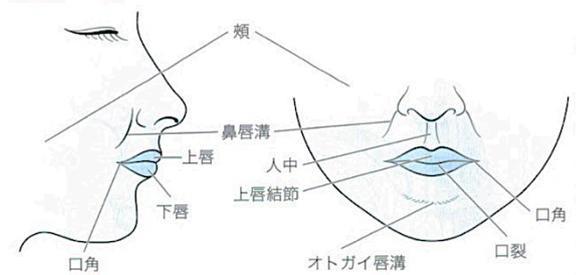


V. 口腔軟組織学

A. 口腔付近の解剖

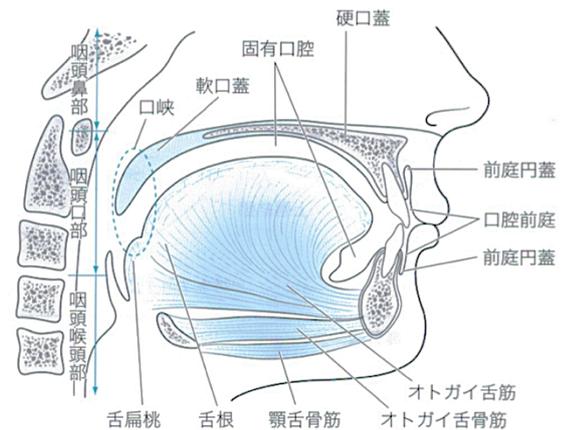
1. (**鼻唇溝**) : 上唇と頬の境にある浅い溝。
→ 歯の喪失で咬合高径が低下し、溝が (**深く**) なる。
2. (**人中**) : 上唇の正中の上部にある幅の広い溝。
→ 歯の喪失で咬合高径が低下し、溝が (**不明瞭に**) なる。
3. 上唇結節 : 上唇の正中にある隆起部。
4. (**オトガイ唇溝**) : 下唇の下部とオトガイ部の間にある溝。



B. 口腔前庭の解剖

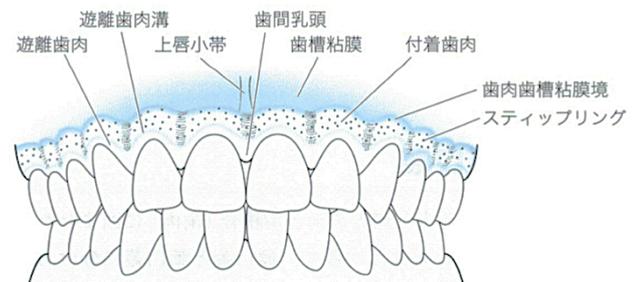
口唇・頬と歯列弓の間の空間を口腔前庭といい、上唇小帯、下唇小帯、頬小帯、(**耳下腺乳頭**) が存在する。

1. 口唇
口唇は口裂を取り囲むヒトにのみみられる構造で、口角を境に上唇と下唇とに分けられる。口唇は皮膚部、赤唇、粘膜部に分けられ、口唇の土台は口輪筋である。粘膜部には (**口唇腺**) が開口するが、赤唇部は角化重層扁平上皮であるが、毛包や汗腺、唾液腺は開口しない。



2. 頬
頬は口腔の側壁を形成し、外面は皮膚、内面は粘膜で覆われ、その間に頬筋がある。頬は咀嚼時に舌と協調して食物を歯の上に乗せたり、口腔内の圧力を上昇あるいは低下させたりするとともに、表情の形成も担っている。

3. 歯肉
歯肉は可動性に富む (**遊離歯肉**) と可動性に乏しい (**付着歯肉**)、ならびに隣接歯間を埋める (**歯間乳頭**) に分けられる。健康な歯肉においては付着歯肉表面にスティッピングと呼ばれる小さい浅い凹みが多数みられる。



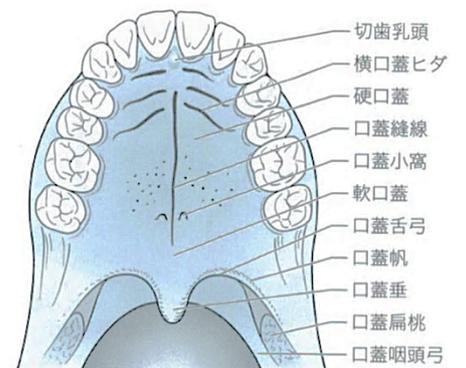
C. 固有口腔の解剖

固有口腔は前方と側方を歯と歯槽骨に囲まれた部分で、後方は口峡である。固有口腔の天井は口蓋 (硬口蓋と軟口蓋) で、底は口腔底、その中央には舌がある。

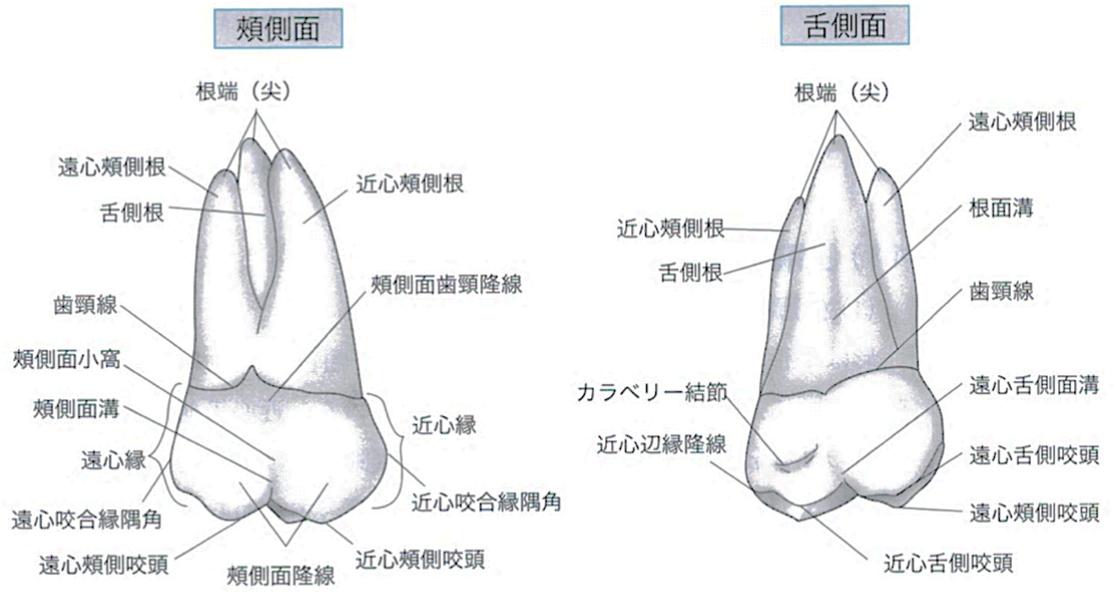
1. 口蓋
口蓋は口腔と鼻腔を隔て、口蓋の前 2/3 が硬口蓋、後方 1/3 を軟口蓋と分ける。

1). 硬口蓋

硬口蓋の粘膜は厚い (**角化重層扁平**) 上皮で覆われており、正中部に口蓋縫線、これに直交する数本の横口蓋ヒダが存在する。また、前歯部には上顎切歯部の歯や歯肉を支配する鼻口蓋神経がでる切歯乳頭がみられる。



1. 上顎第一大臼歯

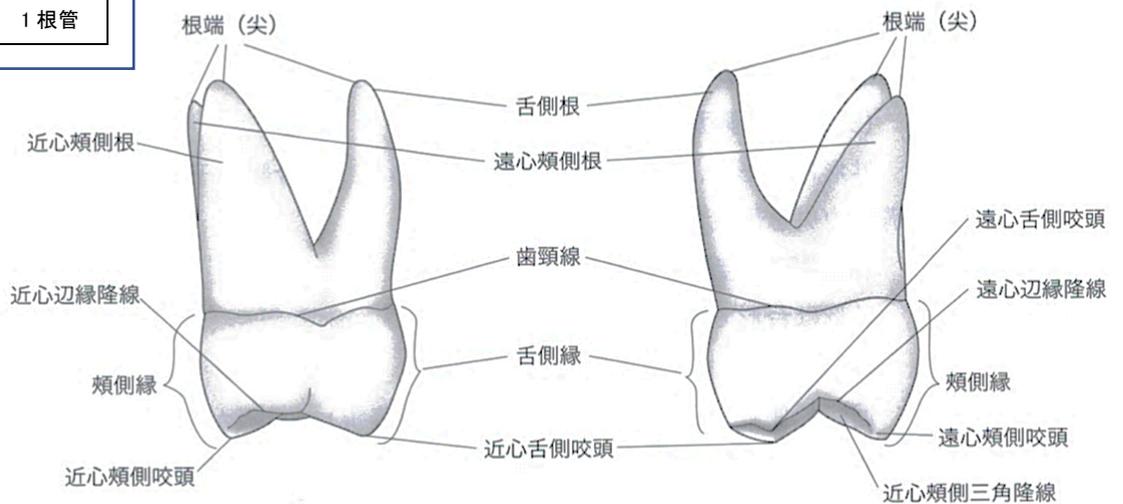
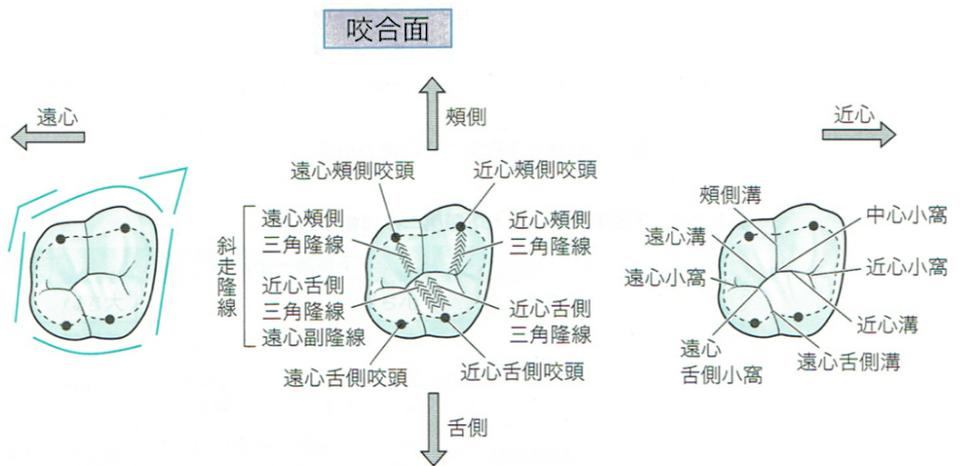


【咬頭】

- 4咬頭
- 頬側 > 舌側
- 近心 > 遠心
- 固有咬合面は頬側に偏位

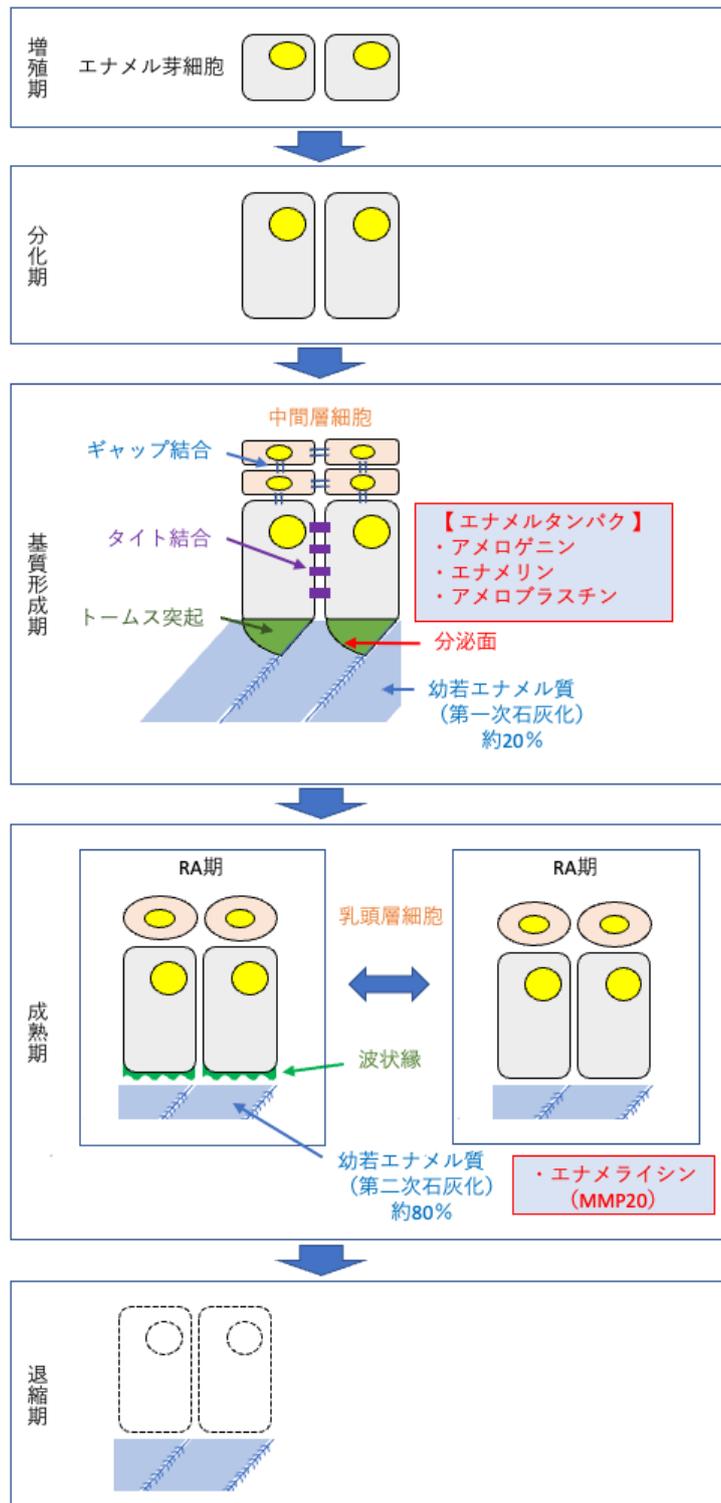
【齒根・齒髓腔】

3根	4根管
近心頬側根	2根管
遠心頬側根	1根管
口蓋根(舌側根)	1根管



近心隣接面

遠心隣接面



【 エナメル質形成の特徴 】

- ① 象牙質に遅れて形成開始
- ② 内エナメル上皮がエナメル芽細胞に分化
切縁、咬頭頂部のエナメル象牙境から開始し、将来のエナメル質表面に向かって進行する。
- ③ 2段階の石灰化
基質形成期のエナメル質は弱い石灰化（約 30%）で、エナメルタンパク質を多く含む。成熟期に高度に石灰化（約 95%）したエナメル質が完成する。